

第8回 Tokyo Breast Consortium
「TBCを通じた治療連携の実例」



大塚フレストケアクリニック
大塚恒博

2012年3月10日

New 大塚ブレストケアクリニック (H23.3.1移転)

医師:常勤2名 非常勤1名
看護師:3名
診療放射線技師(マンモグラフィ認定)3名
事務職員:4名
総勢:13名

マンモグラフィ:2台
超音波:2台
吸引式針生検:1台
更衣室:6個
点滴ベッド:4台(化学療法:月約40名)



大塚ブレストケアクリニックの 乳腺診療の流れ

- **開院: 2005年10月1日**
- **年間外来受診数: 約20150名**
(うち新患: **約2920名**)
- **年間マンモグラフィ撮影件数: 約7800名**
(うち足立区乳がん検診: **約2920名**)
- **年間乳がん発見件数: 約120名**
- **年間乳がん手術件数: 約100名**
- **乳がん術後経過観察患者数: 約400名**
- **移転: 2011年3月1日**

大塚ブレストケアクリニックの 乳腺診療の流れ

要精検患者 (細胞診・針生検)

→ 良性 ⇒

➤ 経過観察

→ 悪性 ⇒

- 3D-CT、MRI、骨シンチにて広がり診断、腋窩リンパ節腫脹、遠隔転移の診断(近隣施設での医療連携)
- 手術、化学療法前のセンチネルリンパ節生検(近隣施設での医療連携、オープン病院)
- 術中迅速病理(近隣病理業者との連携)
- 術後放射線治療(近隣施設での医療連携)
- 術前、術後化学療法(大塚ブレストケアクリニック)
- サポートケア(近隣施設での医療連携)

当院の地域医療連携

- ★ **診断**: CT・MRI・骨シンチ・PET
- ★ **治療**: 放射線治療、手術、入院の必要な化学療法(例:ハーセプチンの初回投与)
IVHポート埋め込み、サポーティブケア
- ★ **足立区乳腺医療連携(精密検査医療機関の絞り込み)**
乳腺精密検査医療機関の基準
 - ・マンモグラフィの精度(施設認定、読影認定医、撮影認定技師)
 - ・超音波の精度
 - ・細胞診、針生検が施行出来る。
 - ・病理診断が可能(外注可)
 - ・乳腺専門医、認定医が常勤している。
- ★ **フィルム読影**
 - ・モニター診断
 - ・フィルムレスで保存場所不要
 - ・他施設との画像のやり取り(手術施設、検診への対応)
 - ・足立区検診への応用

大塚フレストケアクリニック (足立区竹の塚)

～TBCホームページ 連携マップより～



乳腺専門クリニックと 都内センター病院との医療連携①

Tokyo Breast Consortium (TBC)

- 乳腺専門病院は、増加し続ける乳がん患者の手術と経過観察であふれている。
- 乳腺専門クリニックと連携することで、患者を迅速にそして円滑に診察できる様にする。
- 定期的に研究会を開催し、顔の見える紹介が出来るようにする。
- 患者が安心して診察を受けられる様に、共通のパスを作成し運用する。

乳腺専門クリニックと 都内センター病院との医療連携②

クリニックが行う医療連携

- センター病院へ紹介した患者の安定期（ホルモン治療開始）からの経過観察
- センター病院で5年、10年経過した患者の経過観察
- センター病院で診察している良性疾患患者の経過観察

今後行う可能性がある事項

- 術後補助療法としてのハーセプチンの施行
- センター病院で手術が決定している患者の術前化学療法

乳腺専門クリニックは、乳腺疾患に関する専門的知識を持っている事が必要最低限の条件

Tokyo Breast Consortium

Tokyo Breast Consortium (東京ブレストコンソーシアム) は
乳がんの診断・治療をおこなうクリニックと、センター病院の専門医・コメディカル同志の
安心な連携を目指しています。

顔の見える連携の輪



Mission

患者さんが安心して診療を受けられる関係(Consortium)をつくり、維持します。

Vision

紹介する、紹介される どちらも顔の見える連携を続けます。

2005年、開院からの連携実績

50音順

—集計施設—

- がん・感染症センター都立駒込病院
- がん研有明病院
- 慶應大学
- 国立がん研究センター中央病院
- 聖マリアンナ医科大学
- 聖路加国際病院
- 順天堂大学順天堂医院
- 昭和大学
- 東京医科歯科大学
- 東京慈恵会医科大学
- 東京女子医科大学附属東医療センター
- 東京大学
- 帝京大学
- 三井記念病院

(14施設)



国立がん研究センター中央病院

【特徴】

- ・患者様が、国がんを希望されることが多い
- ・セカンドオピニオン希望、5例あり



(紹介状) 14例

5例(報告書)

12例(紹介状)

・2008年10月～

TBC発足後の、顔の見える連携実施の効果

・(11例/12例中)、癌患者であった



がん研有明病院

【特徴】

- ・国がん同様、患者様が希望されることが多い
- ・セカンドオピニオン希望は11例あり、うち6例が現在OBCCにて受診中

OBCCにて術前化療

⇒がん研にて**Ope**

⇒術後OBCCにて

フォロー症例あり



(紹介状) **23例**

8例(報告書)

4例(紹介状)

・3例／4例中、良性疾患であった



聖路加国際病院

【特徴】

- ・医療連携を目的とした紹介患者様は、戻って来てくれる
- ・聖路加受診を希望した患者様は戻って来られない傾向がある
- ・セカンドオピニオン希望、4例あり



(紹介状) 20例

10例(報告書)

- ・(9例/10例中)、癌患者様であり、術後を当院にてフォロー中
- ★乳腺クリニックとして理想的な連携★

3例(紹介状)



がん・感染症センター都立駒込病院

【特徴】

- ・非常に連携症例数が多い
- ・5例／30例中、マンモトーム症例あり
- ・駒込非常勤医師(当院常勤医師)の患者連携
- ・OBCCとの交通の利便性が良い(近い)



(紹介状) **30例**

14例(報告書)

83例(紹介状)

- ・当院常勤医師(駒込非常勤医師)の患者
- ・46例／83例中、癌患者であった



一人病診連携実施!

【特徴】

- ・都内の北東部地区が6人
- ・埼玉県の方が2人
- ・OBCC、東京都北部の立地条件が適す？



9例(紹介状)

(紹介患者様 ご自宅)

- ①埼玉県 朝霞市
- ②埼玉県 草加市
- ③東京都 狛江市
- ④東京都 文京区
- ⑤東京都 足立区
- ⑥東京都 足立区
- ⑦東京都 墨田区
- ⑧東京都 墨田区
- ⑨東京都 葛飾区



その他の連携施設

<2005.10~2011.11>

49例(紹介状)

(報告書)

23例(紹介状)

2008年10月
TBC発足以後

33例 / 49例

16例 / 23例

《8施設》

- 順天堂大学順天堂医院
- 昭和大学
- 東京医科歯科大学
- 東京慈恵会医科大学
- 東京女子医科大学附属
東医療センター
- 東京大学
- 帝京大学
- 三井記念病院 (50音順)



当院の病診連携まとめ



絆

【成果】

- TBC発足後、当院における病診連携は進んでいる。
- ドクター同志の顔の見える連携により、患者様への円滑な医療連携を施すことが出来ている。

【課題】

- 紹介された患者様が来院されないケースもある。
⇒ アンケートなどを活用し、より患者様のニーズに
 応えられる様に模索する。

(たとえば・・・)

- Q、初めて来院される際、何かご不安はございましたか？
- Q、初めて来院される際、MAPなど解り易かったですか？
- Q、初めて来院される際、当院のホームページはご覧になりましたか？
- Q、初めて来院された際、受付などスタッフの対応は如何でしたか？
- Q、何かお気づきになれることは・・・など

病診連携を実施する際に 活用したいもの

□ 診療報酬

- ① がん治療連携計画策定料
- ② がん治療連携指導料

□ 東京都医療連携手帳

がん診療連携拠点病院等を中心とした連携の評価

がん治療連携計画策定料(計画策定病院)750点(退院時)

【算定要件】

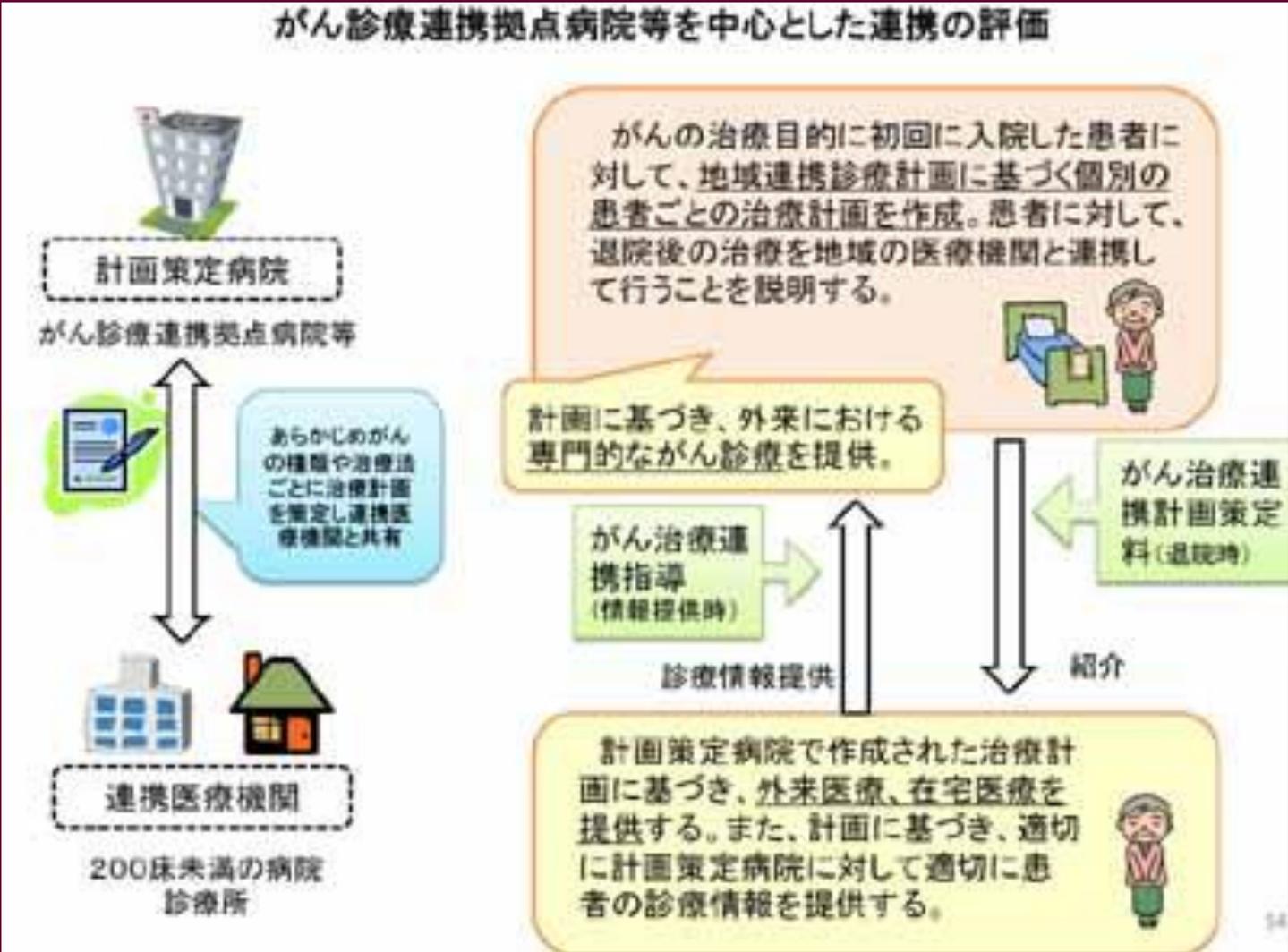
がん診療連携拠点病院又は準ずる病院において、がんの治療目的に初回に入院した患者に対して、地域連携診療計画に基づく個別の患者ごとの治療計画を作成し、患者に説明した上で文書にして提供した場合に退院時に算定する。

がん治療連携指導料(連携医療機関)300点(情報提供時)

【算定要件】

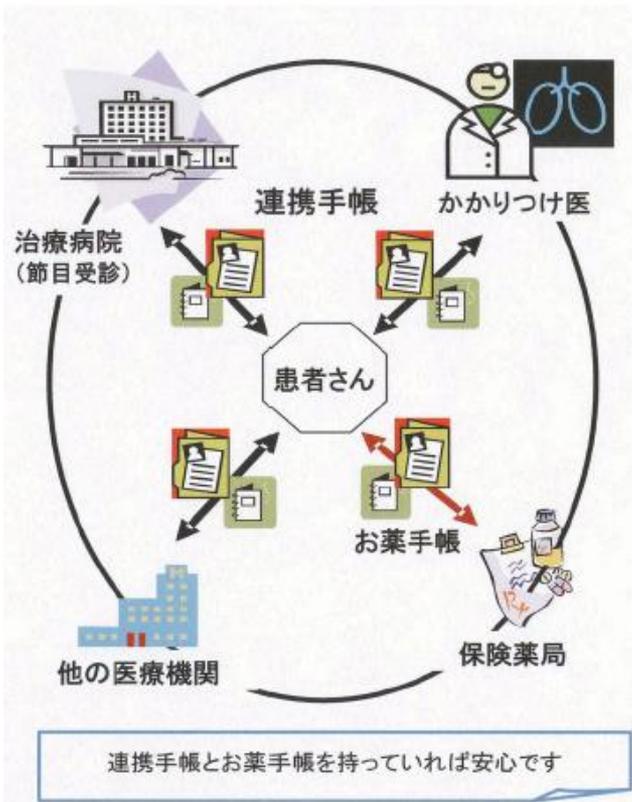
連携医療機関において、患者ごとに作成された治療計画に基づく診療を提供し、計画策定病院に対し、患者の診療に関する情報提供をした際に算定する。

がん診療連携拠点病院等を中心とした連携の評価 (参考図)



東京都医療連携手帳について

連携手帳を用いた診療の流れ



東京都医療連携手帳



東京都医療連携手帳について

○ 手帳の利用方法

連携開始時

専門的な治療(治療病院)を行った病院から、患者さんに手帳が渡されます。

これ以降、この手帳は患者さんが所持し、診察及び検査等で治療病院及び診療所に行く際、必ず持参し提示してください。



診察・検査

患者さんは、手帳に記載された計画に沿って、かかりつけ医又は治療病院(どちらで受診するかについても、手帳に記載されています)で、診察・検査を受けます。

手帳には、患者さん、かかりつけ医、そして治療病院が、それぞれ気になることを記載する箇所がございますので、ご利用ください。(患者さんの状態をみんなで共有することができ、安心して診療を受けられます。)



その他の時

別の病気で他の医療機関等に行く際に、手帳を持参すれば、より適切な対応に繋がります。

地域連携クリティカルパス「東京都医療連携手帳」とはがん患者さんが、手術など専門的な治療を行った後に使用するもので、患者さんの5年ないし10年先までの診療の計画を立てたものを、一冊の手帳にまとめたものです。

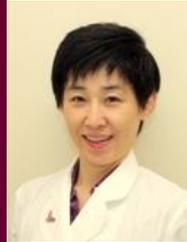
手帳を使うことによる利点

患者さんが医療機関等を受診する際にこの手帳を持参することにより、専門病院の医師、かかりつけ医、その他の医療機関等が、患者さんの治療経過を共有でき、より適切な診療が可能になります。患者さんが手帳を持つことにより、「いつ」「どこで」「どんな」診察・検査を受ければよいか分かります。

地域医療連携のポイント！

患者様が安心して治療・経過観察を行えるためには、
センター病院と連携先施設の医師
同士の顔の見える連携が重要である。

顔の見える医療連携！



大塚ブレストケアクリニック

OHTSUKA I

本日はご静聴ありがとうございました。

